

中国語の代動詞的用法の“来”が辿ってきた文法化経路

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 相原, まり子, AIHARA, Mariko メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15053/0000000043

Copyright © JAPAN COAST GUARD ACADEMY
2020

【論文】

中国語の代動詞的用法の“来”が辿ってきた文法化経路

相原 まり子

1 問題提起

中国語の“来 (lai)”の最も基本的な用法は、話し手方向への物理的移動を表す用法であり、日本語の「来る」と意味的に重なる部分大きい。次の(1)、(2)がその例である。

(1) 小李会来这里。(李さんはここに来るだろう。)

(2) 小李会来吃饭。(李さんは食事しに来るだろう。)

(1)では“来”の後ろに場所を表す名詞句が現れ、(2)では後ろに動詞句が現れているが、どちらの“来”も主語(“小李”)が話し手方向へ物理的に移動することを表している。しかし、物理的移動を表さない“来”や移動義が薄れた“来”もある。次の(3)から(6)は物理的移動の意味を持たない“来”、(7)は移動義が薄れた“来”の例である¹⁾。

(3) 那好吧，你来说我来写。(じゃあいいよ、あなたが話して、私が書くから。)[BCC/玛哈公主]

(4) 你歇歇，让我来。(あなたちょっと休んで、私がやるよ。)[『现代汉语词典(第四版)』]

(5) 咱们先来一杯醒醒胃口，饭后再来一杯。(まず一杯やって腹を減らして、飯の後にもう一杯やろう。)[钱钟书『围城』][池田 2005 例(1)]

(6) (略) 摇头不算点头算，来个干脆的。(首を横に振ればノー、縦ならイエス、はっきりしろ。)[老舍『茶馆』][池田 2005 例(2)]

(7) 掌柜的，长辛店大战的新闻，来一张瞧瞧？(親父、長辛店での戦争の

¹⁾(7)の“来”はこの文では「買う」という動作を指しており、「買う」という行為には販売者側から購入者への物の移動が含まれるため、物理的移動の意味が完全に無くなっているとまでは言えない。詳細は2.3節を参照されたい。

2- 中国語の代動詞的用法の“来”が辿ってきた文法化経路

ニュースだ、一部どうだい?) [老舍『茶馆』] [池田 2005 例(3)]

池田 (2005) は、(3)のような“来”を<積極性>の“来”²⁾と呼び、(4)から(7)のような“来”を代動詞的用法の“来”と見なしている。その上で、(4)から(7)の代動詞的用法の“来”は<積極性>の“来”から生まれたものであると主張している。しかし、代動詞的用法に分類される“来”には別のルートを經由したと考えられる“来”もある。

そこで、本論文では池田 (2005) が代動詞的用法に分類している“来”の意味及び統語的特徴を分析し、代動詞的用法の“来”には複数のタイプがあることを示す。さらに、各タイプの代動詞的用法の“来”が辿ってきた文法化³⁾のルートを推定する。

議論に入る前に本稿で使用する略語の意味や例文の出典について述べておきたい。本稿では、例(3)のような[動作者名詞句⁴⁾+来+動詞句]という形式に用いられる物理的移動の意味を持たない“来”を“来 f1”⁵⁾と呼ぶ。各例文の出典は例文末尾の括弧 [] 内に記す。出典の中の“BCC”は北京語言大学の中国語コーパスから収集した例であることを示し、“web”はウェブサイトから採った例であることを示す。出典を記していないものは筆者の作例であるが、すべて中国語母語話者のチェックを経たものである。

2 代動詞的用法の“来”が辿ってきた文法化経路

2.1 “来 f1”の意味と統語的特徴

上述のように、先行研究において代動詞的用法の“来”が“来 f1”から生まれたという説が提唱されているため、代動詞的用法の分析に入る前に“来 f1”の意味と統語的特徴を簡単に確認しておきたい。

²⁾ 池田 (2005) は<積極性>の“来”を「発話現場における動作立ち上げの申し立て」を表すものだと捉えている。

³⁾ 文法化とは自立度の高い内容語が文法機能を担うようになるプロセスを指す。

⁴⁾ 「動作者名詞句」は「当該動作を行う主体を表す名詞句」を指し、「受動者名詞句」は「当該動作の受け手である人や物を表す名詞句」を指す。

⁵⁾ 本稿で“来 f1”と呼ぶものと池田 (2005) が<積極性>の“来”とするものは完全には一致していない可能性もあるが、池田 (2005) に挙げられている例から判断すると大体において一致すると考えられる。

“来 f1”は“明天我来做饭（明日は私が食事を作りに来ます）”のような動作者名詞句（主語）の指示対象の物理的移動を表す“来”から生まれたものであると考えられるが⁶⁾、既に「来る」という語彙の意味（lexical meaning）を失い、文法化している。“来 f1”の文法的意味（grammatical meaning）については、「動作者の積極性を表す」（辛承姫 1998: 54）、「発話現場での動作立ち上げの申し立てを表す」（池田 2005: 158）、「話し手の願望を表す」（郭維茹 2005: 145）、「前の動作者名詞句を焦点として標示する」（相原 2005、魯晓琨 2006）といった説明がなされてきたが、相原（2010、2016、2019）では、先行研究の不十分な点を指摘した上で、“来 f1”の意味を分析し、次のように記述できることを論証した。

“来 f1”は「後ろの動詞句が〔話者領域【場】〕において誰かが行う必要のある行為である」ということを前提として表示し、主語である動作者名詞句を脱主題化する。さらに、動作者名詞句の指示対象が〔話者領域【場】〕に心理的に移動してその行為を実現させることを、話し手またはそれに準じる人物が希求していることを表す。

ここで言う〔話者領域【場】〕とは「発話時に話し手が視点を置いている場」であり、話し手の視点移動が起こっていない場合には「話し手が発話時に存在する場（今、この場）」を指し、話し手の視点移動が起こっていれば、その視点の移動先の場を指す。“来 f1”が使われるのは、話し手または話し手に準じる人物が〔話者領域【場】〕に存在する「誰かがやるべき行為」に注目し、「自分」もしくは「聞き手」もしくは「第三者」によって実現させようとすることを伝える場合である。

(8) 你来写第三章。(あなたが第三章を書いて。)

たとえば、例(8)は、もし“来 f1”が無ければ聞き手に対する単なる命令に過ぎないが、“来 f1”を入れることによって「第三章を執筆する」という行為を話し手が「〔話者領域【場】〕において誰かが行う必要のある行為であ

⁶⁾ 物理的移動を表す“来”から“来 f1”への変化のプロセスについては相原（2019）で分析したため、ここで再び論じることはしない。

る」と認識し、それを前提として当該行為を「聞き手」によって実現させようとしている、ということが伝達される。つまり、(8)の発話で表現されているのは「[話者領域【場】]で誰かがやらなければいけない「第三章を書く」という行為をあなたによって実現させてください」という意味である。「来 f1」を含む文の統語的特徴としては、動作者名詞句(主語)が省略できない、認識的モダリティ動詞を前に入れられない、諾否疑問文を作りにくい、後ろの動詞に完了を表す接尾辞“了”や経験を表す接尾辞“过”を入れると不自然になる、といった特徴が挙げられる。

2.2 “来 f1”を經由して生まれた代動詞的用法の“来”

2.1 では“来 f1”の意味と統語的特徴を概括したが、以下では先行研究で代動詞的用法に分類されている“来”の由来を考察する。まず、“来 f1”を經由したと考えられる例(9)から見ていきたい⁷⁾。

(9) 他们来到李缅甸家门口, 李缅甸掏钥匙开锁, 怎么也对准钥匙孔。“我来, 你醉了。” 钱康夺过钥匙, 去捅锁眼, 也是无论如何对不准。(彼らは李緬寧の家の入り口に到着した。李緬寧は鍵をポケットから出し、開錠しようとしたが、うまく鍵穴に入らない。「私がやるよ、あなた酔ってる」と銭康が鍵を奪い、鍵を挿したが、どうしてもうまくいかない。)

[王朔『无人喝采』]

下線部が表しているのは〔話者領域【場】〕において誰かがやるべき「鍵を開ける」という行為を「自分」によって実現させようという意味であり、意味表示の面においてこの“来”と“来 f1”の間に違いはない。また、統語的な面においても〔動作者名詞句+来 f1+動詞句〕と異なるのは“来”の後ろに動詞句が現れていないという点のみである。このようなことから、(9)の下線部は〔動作者名詞句+来 f1+動詞句〕の動詞句が省略された形であると見なすことができる。このような“来”を代動詞的用法に分類して“来

⁷⁾『現代汉语词典』(第四版)では「ある動作を行う(より具体的な意味の動詞の代替)」という意味項目に“你歇歇, 让我来(あなたちょっと休んで、私がやるよ)”が挙げられており、(9)のような“来”を代動詞的用法と捉えていることが窺える。池田(2005:155)も“让我来开(私が開けるよ)”という発話の後に出てきた“让我来(私がやるよ)”について“开”が“来”で代用されていると説明している。

f1”と区別するのであれば、確実に“来 f1”から生まれたものであると認定できる。

次に、例(10)の“来”について考えてみよう。

(10)a. 我来唱(一)支歌, 你来弹(一)段钢琴, 他来讲(一)个故事, 大家都来表演一个节目。

b. 我来(一)支歌, 你来(一)段钢琴, 他来(一)个故事, 大家都来一个节目。(私が一曲歌を歌い、あなたがピアノを弾き、彼が小話を話し、みんなで一つの出し物をやろう。) [Shen 1996]

(10)は Shen (1996: 534-535) が挙げている例である。同論文は、動詞を省略してもどんな動作かを推測できる場合は(10b)のように“来”の後ろに直接目的語が来ると指摘し、(10b)の“来”は明示されない動詞の意味を吸収しているように見えると述べている。このような記述から、同論文が(10b)の“来”を(10a)の“来”から生まれたものであると見なしていることが窺えるが、筆者もこの見解を支持する((10a)の“来”は本稿の“来 f1”に該当)。なぜなら(10b)の“来”も、話し手が「明示されない動詞+受動者名詞句」を「誰かがやるべき行為」として捉え、動作者名詞句の指示対象によってそれを実現させようとしている、という意味を表すからである。

また、Shen (1996:539, 注 19) は、(10b)の“来(一)支歌”は「歌を聴く」ではなく「歌を歌う」、「来(一)段钢琴」は「ピアノを聴く」ではなく「ピアノを弾く」、「来(一)个故事」は「話を聞く」ではなく「話をする」と理解されると指摘し、このような予測を可能にする原因⁸⁾については「さらなる研究が必要」としつつも、「話し手と聞き手の百科事典的知識の蓄積」を挙げている。Shen (1996) の言うように、このような予測には百科事典的知識の蓄積が必要なことは確かであると思われるが、それだけでは予測は難しく、[動作者名詞句+来 f1+動詞句]という構造についての

⁸⁾Shen (1996: 539) は、予測が可能であることにはステレオタイプ動作“stereotypic action”が関わっているように見えるが、さらなる研究が必要であると述べ、暫定的な見解として、このような予測可能性は話し手と聞き手の両方の百科事典的知識に蓄えられていると述べている。

言語知識も重要な役割を果たしていると考えざるを得ない。たとえば、(10b)の最初の“我来(一)支歌”を例に取ると⁹⁾、「聴く」という動作も「歌う」という動作も「歌」によって喚起される典型的な動作であるため、「来 f1」の後ろの動詞句は「話者領域【場】において誰かが行う必要のある行為である」という言語知識がなければ、明示されない動詞が「歌う」という動作を表すものであると予測することはできない。つまり、聞き手は「来 f1」の後ろの動詞句が指し示す行為は「話者領域【場】において誰かが行う必要のある行為である」という言語知識と「出し物の中で演者の誰かが歌を歌う必要があるという状況は頻繁に起こるが、出し物の中で演者の誰かが他の人の歌を聴く必要があるという状況は稀である」という百科事典的知識の両方を元に、明示されない動詞が「歌う」という動作を指していると理解するのだと考えられる。このことから(10b)が「動作者名詞句+来 f1+動詞句」の動詞が省略されて生まれた形式であることが明らかである。

2.3 “来 f1” 経由とは考えにくい代動詞的用法の“来”

次に、“来 f1”を経由したとは考えにくい代動詞的用法を見ていく。

(11) 掌柜的，长辛店大战的新闻，来一张瞧瞧？（親父、長辛店での戦争のニュースだ、一部どうだい？）[老舍『茶馆』] [=例(7)]

(11)は新聞売りの子供が聞き手に対して戦争のニュースが載った新聞の購入を勧める発話である。このタイプの“来”は相手に品物の購入や試食を勧めたり、相手に何かを注文したりする場面でよく用いられることから、以下では便宜上「授受」の“来”と呼ぶことにする。「授受」の“来”は既実現の事態を表す文には使い難く、その点では“来 f1”と共通するが、意味的にも統語的にも“来 f1”との差異は非常に大きい。以下、その違いについて述べる。

一つ目の違いは行為と動作者の関係である。“来 f1”の場合、伝達される事態の「行為」と「動作者」の関係は「誰かがやるべき行為」と「その

⁹⁾ “支”は助数詞(量詞)で“(一)支歌”は「一つの歌」という意味の名詞句である。

担い手」という関係であるが、「授受」の“来”を含む文においてはそうではない。(11)は「誰かがやらなければいけない「新聞を買う」という行為をあなたがやりなさい」と言っているのではなく、単に聞き手に新聞を買うことを勧めているに過ぎない。二つ目の違いは主語の省略である。“来 f1”の主語（動作者名詞句）は省略できないが、「授受」の“来”の場合、(11)のように主語が明示されないことが多い。三つ目の違いは前置詞句の入る位置である。「授受」の“来”の場合、“来”の前に前置詞句を入れることが可能である。(12)、(13)は“来”の前に前置詞句 [給+名詞句] が入った例である。これに対して、“来 f1”の場合、(14a)のように後ろに前置詞句を入れることはできるが、前に入れることはできず、(14b)は不自然な文となる（中国語母語話者 6 人中 5 人が不自然と回答）。

(12) 报童：卖报了卖报了，俄国十月革命大胜利，二文钱一张，卖报卖报。

（新聞売りの子供：新聞、新聞、ロシアの10月革命は大勝利。一枚二文。新聞、新聞。）

陈：给我来一张。（陳：私に一枚くれ） [web/ブログ]

(13) 她右手提热水瓶，左手提一串一次性杯子，时不时给需要的旅客倒上一杯姜汤。“大姐，给我来一杯。”“给我再来一杯。”旅客不断围上来。（彼女は右手にお湯の入ったポットを持ち、左手に使い捨てコップを持ち、ずっと旅行者に生姜スープを配っていた。「お姉さん、私に一杯ください」「私にもう一杯ください」と旅行者がひっきりなしに集まってきた。）

[web/光明网/人物邪楷模]

(14) a. 我来 f1 给你做饭。（私があなたにご飯を作ってあげる）

b. ?我给你来 f1 做饭。

さらに、四つ目の違いとして、“来 f1”は原則的に話し手または話し手に準じる人物の希求を表す場合にしか用いられないのに対して、「授受」の“来”は次の(15)のように希求文以外にも使うことができるという点が挙げられる。

(15) 有一家“竇记羊肠汤”最为出名，每天早晨都得排队。我会来一碗羊肠汤，再要两个火烧，一顿早餐就吃的津津有味，大汗淋漓。（「竇記羊腸湯

湯」というお店が一番有名で、毎朝並ばなくてははいけないのです。私は羊腸湯を一つ注文し、さらに火焼を二つ注文するのですが、朝からとても美味しくて、玉の汗をかきます。) [web/ブログ]

(15)の“来”の前には助動詞“会”が使われているが、この“会”は習慣¹⁰⁾を表しており、下線部は希求を表す発話(意思表明や行為要求など)ではない。以上、「授受」の“来”と“来f1”を比較し、両者には意味的、統語的に大きく隔たりがあることを見たが、次に(16)のような“来个干脆的”という形式¹¹⁾に用いられる“来”と“来f1”を比べてみよう。

(16)〔略〕摇头不算点头算，来个干脆的。(首を横に振ればノー、縦ならイエス、はっきりしろ。[老舍『茶馆』] [=例(6)])

“来个干脆的”は逡巡のない行動や決断を行うことを表し、(16)の下線部は聞き手に対してすぱっと決断することを要求している。以下では、このような“来个干脆的”の“来”を「果断」の“来”と呼ぶ。先述のように、“来f1”は話し手が当該行為を〔話者領域【場】〕において誰かが行うべき行為であると見なし、それを前提として自分や聞き手などによってそれを実現させようとする時に用いられるものであるが、(16)の下線部からはそのような前提は喚起されない。聞き手が決断をすることを話し手は望んでいるが、〔話者領域【場】〕において誰かがやるべき「決断」をあなたがやりなさいと言っているわけではない。また、“来个干脆的”は(16)のように主語が明示されないことも多く、主語を省略できない“来f1”とは異なる。さらに、「果断」の“来”の場合、例(17)のように“来”の前に前置詞句を入れることができ、この点も“来f1”と異なる。

(17) “一周后的期中考试，大河你如果能考赢我的话，只要你愿意，不论何时我都可以做饭给你吃。…但是万一要是我赢了的话……”我心想不到给他来个干脆点儿的，就一局定胜负。(「一週間後の中間試験で、大河、

¹⁰⁾ “会”の習慣用法については柯理思(2007)を参照されたい。

¹¹⁾ “个”は助数詞(量詞)であり、前の数詞“一”が省略されている。“一”を入れて“来一个干脆的”のように言うことも可能であるが、この表現では“一”を入れないと言うことが多い。

おまえが私に勝ったら、お前が望みさえすれば、いつでもご飯を作って食べさせてやる…もし私が勝ったら…」私は心の中で、むしろ、すばつと一回で勝負を決めちゃったほうがいいと思った。) [web/网易]

“来 f1” とのもう一つの違いは、「果断」の“来”は(18)が示すように、希求文以外にも使えるという点である。

(18)我妈倒说那是培养淑女的学校，让我进去跟人家学着点，我不想去，就来了个干脆的，今天去理发馆把头发剪了，我不当淑女，当男孩子还不行？(母はそこは淑女養成学校だと言い、私をそこに入れて学ばせようとしたが、私は行きたくなくて、今日床屋に行って躊躇なくすばつと髪を切ってやった。私は淑女ではなく、男の子になるのはだめか?)

[web/海外文軒]

(18)では“来”の後ろに完了を表す動詞接尾辞“了”が付き、「逡巡のない行為」が既に実現していることを表している。

以上、「授受」及び「果断」の“来”と“来 f1”の間には意味的、統語的に大きな隔りがあるということを指摘したが、この事実はこれらの“来”が“来 f1”を経由して生まれたものではなく、別の経路を辿って来たことを示唆している。

それでは、どんな経路が考えられるだろうか？——本論文では「授受」の“来”も「果断」の“来”も「寄越す」という意味の“来”から生まれたものであると推定する。以下では、まず「授受」の“来”と「寄越す」の“来”の関係を確認する。

(19)我多么盼望你能来封信呀！（あなたが手紙を寄越してくれることをどんなに待ち望んでいることか。）[BCC/骂出好孩子]

(19)の“来”は「寄越す」という意味を表す“来”であり、“来”の後ろに現れる受動者名詞句（目的語）が指し示す物（この文では「一通の手紙」）の物理的移動を表している。本稿の冒頭に挙げた次の“来”も物理的移動を表しているが、これらは動作者名詞句（主語）の移動を表すものである。

(20)小李会来这里。(李さんはここに来るだろう。)[=例(1)]

(21)小李会来吃饭。(李さんは食事しに来るだろう。)[=例(2)]

このように、物理的移動を表す“来”には“来”の前の名詞句（主語）の指示対象の移動を表す(20)(21)のようなタイプと、“来”の後ろの名詞句（目的語）の指示対象の移動を表す(19)のようなタイプがある。本論文では、「授受」の“来”は後者から生まれたと考えるが、その根拠の一つは、動詞と後ろの名詞句との意味関係及び位置関係に見られる共通性である。

「授受」の“来”は移動義が薄れているとは言え、物を提供する側から提供を受ける側への物の移動を含意し、提供物を指し示す語句は“来”の後ろに用いられる。つまり、「寄越す」の“来”も「授受」の“来”も後ろに現れる名詞句との意味関係は「移動—移動物」という関係なのである。「授受」の“来”が「寄越す」の“来”から生まれたと考えるもう一つの根拠は、両者とも前に前置詞句が入られるという点である。「授受」の“来”の前に前置詞句が入った例は先に見たが(例(12)(13))、「寄越す」の“来”も(22)が示すように前に前置詞句を入れられる。

(22) “好的，有了结果给我来个信。”（わかった、じゃ結果が出たら手紙を寄越してね）。[BCC/永生之狱—射手座传奇]

小学館・商務印書館共編の『中日辞典』（第三版）では「授受」の“来”は(19)のような「寄越す」の“来”と同じカテゴリーに分類されているが、これは共通点が多いことに着目した分類だと思われる。しかしながら、両者には下記のような違いもある。一つ目は「授受」の“来”は原則的に未実現の事態に言及する時に用いられるのに対して、「寄越す」の“来”は未実現の事態を表す文のみならず既実現の事態を表す文にも用いられるという点である。次の(23)は「寄越す」の“来”が含まれる例であるが、既実現の出来事を述べる文である。

(23) 前天他来了一封“长”信，写满了一张三百字的稿纸。（おととい彼は一通の「長い」手紙を寄越した。手紙は300字詰原稿用紙にびっしりと書かれていた。） [BCC/冰心文集]

もう一つの違いは、移動方向に関する制約である。「寄越す」の“来”は原則的に話し手方向への移動を表す場合しか使えず、話し手から遠ざかる方向への移動を表す発話には使いにくい、「授受」の“来”は提供物の話

し手方向への移動だけではなく、話し手から遠ざかる方向への移動を表す場合にも使うことができる。(24)は「寄越す」の例、(25)は「授受」の例であるが、「寄越す」の“来”の場合、(24a)のように移動方向が話し手方向であることを明示する“给我”とは共起できるが、聞き手方向であることを明示する“给你”を入れた(24b)は不自然である¹²⁾。これに対して「授受」の例である(25)は a も b も問題なく成立する。

(24)a.给我来封信吧。(私に手紙を一通ください。)

b.?给你来封信吧。(あなたに手紙を一通送りましょう。)

(25)a.给我来杯咖啡吧。(私に珈琲を一杯ください。)

b.给你来杯咖啡吧。(あなたに珈琲を一杯提供しましょう。)

このような事実から想定できるのは次のような変化のプロセスである。「授受」の“来”の用法が生まれるよりも前に「寄越す」の“来”があり、既実現の事態の叙述にも未実現の事態の叙述にも用いられていたが、「寄越す」の“来”を含む未実現の事態を表す文が「授受」の場面でも用いられるようになり、それによって移動義が希薄化し、移動の方向性が消失した。

次に、「果断」の“来”、即ち“来个干脆的”の“来”が辿ってきた経路について考える。以上の議論において「授受」の“来”が「寄越す」の“来”から派生したという推定を述べたが、「果断」の“来”もやはり「寄越す」の“来”から生まれた可能性が高いと考えられる。特に「果断」の“来”との類似性が大きいのは次の(26)のような例である。

(26)你回去试试。箱子找好了，你来个电话，我过去帮帮你的忙。(あなたは帰って試してみて。トランクが見つかったら電話ちょうだい、手伝いに行くから。)[BCC/永生之狱—射手座传奇]

(26)の下線部の受動者名詞句である“个电话”は物体としての電話機を指しているのではなく一回の電話を指し、この“来”は「一回の電話」が開

¹²⁾ 聞き手が“他”(彼)よりも話し手に近い場所にいる時には次の(i)のように“来”の前に“给你”を入れられるが、これが可能なのは、この状況においては“给你”は「話し手方向」と一致するからである。

(i) 叫他给你来封信吧。(彼に言ってあなた宛てに手紙を送らせよう。)

き手から話し手に向かってなされることを表している。つまり、“来”が表しているのは物体の物理的な移動ではなく、心の中に想起される抽象化された移動である。このような移動を「心理的移動」と呼ぶと、“来”と後ろの名詞句（目的語）との意味関係は「心理的移動—移動物」のように記述できる。様々な言語の意味変化に関する先行研究では、意味拡張の傾向として、具体的なものを指し示す語から抽象的なものを指す語への拡張が起こりやすいことが指摘されており（Sweetser1990 など）、このような一般の傾向から考えると、(26)のような心理的移動を表す「寄越す」の“来”は、(22)(23)のような物理的移動を表す「寄越す」の“来”から生まれた可能性が高いと考えられる。

では、“来个干脆的”における“来”と“个干脆的”はどのような関係だろうか？——“来”の後ろの受動者名詞句（目的語）を担う“个干脆的”は「逡巡のない一つの決断、行動」などを指し、“来”はその決断や行動を「引き起こす」という意味を表す。決断や行動は物体ではないため、この“来”は物体の物理的移動を表すものではないが、決断や行動の生起は抽象物の出現と見なすことができ、“来”と“个干脆的”の関係は「心理的移動—移動物」という関係に類するものであると言える。また、先に「果断」の“来”の前には前置詞句が入られるということを指摘したが、心理的移動を表す「寄越す」の“来”の前にも(27)(28)のように前置詞句を入れることが可能である。

(27) “好啦，走吧，走吧。记着，等你觉得确实安全后，给我来个电话。

（よし、行きな、行きな。確実に安全だと思える状況になったら私に電話すること、忘れてないでね） [BCC/生命之约]

(28) “昨晚刘晓庆给我来了个电话，她说自己状态不错，也看到了很多相关报道。”（昨晚、劉曉慶は私に電話を寄越して、自分の状態はよく、多くの関連する報道を見た、と言っていた。） [BCC/都市快讯]

しかし、ここで指摘しておかねばならないことは、「果断」の“来”が表す行為の方向は「寄越す」の“来”と異なり、話し手方向に限定されないという点である。「寄越す」の“来”のうち、物理的移動を表す“来”が話し

手方向への移動を表す時にのみ用いられることは既に述べたが、心理的移動を表す場合も同じである。(29)は心理的移動を表す「寄越す」の例であるが、当該行為が話し手の方に向かうことを明示する“给我”と共起した a が自然なのに対して、聞き手の方に向かうことを明示する“给你”を入れた b は不自然である。一方、“来个干脆的”の場合は(30)に示すように a も b も成立する。

(29)a.给我来个电话吧。(私に一度電話をください。)

b.?给你来个电话吧。(あなたに一度電話をかけましょう。)

(30)a.给我来个干脆的。(逡巡せずに(当該行為を) やっちゃってくれ。)

b.给你来个干脆的。(逡巡せずに(当該行為を) やってやるよ。)

以上、受動者の物理的移動を表す「寄越す」の“来”から受動者の心理的移動を表す用法が生まれ、そこからさらに「果断」の“来”が生まれたという仮説を述べた。

最後に、(31)のような代動詞的用法の“来”の変化経路を考察する。

(31)咱们先来一杯醒醒胃口, 饭后再来一杯。[钱钟书『围城』] (まず一杯やって腹を減らして、飯の後にもう一杯やろう。) [=例(5)]

先に見た「授受」の“来”（提供物の移動あり）の前にも(32)(33)のように手順や段取りを表す副詞が用いられることがあるが、(31)の“来”は提供する側から提供される側への物の移動を表すものではなく、「授受」の“来”とは一線を画している。そこで、(31)のタイプを「非授受」の“来”と呼ぶことにする。

(32)那个, 服务员, 先来两瓶啤酒。(あのお、店員さん、まずビール2本ください。)

[web/惹火燃情: 总裁, 慢点追]

(33)服务员!再来一杯可乐!大杯的, 多加冰块!(店員さん、もう一杯コーラをください、大きいの。氷多めにして)。[苗若木『爱情三十六记』]

「非授受」の“来”の変化経路として考えられるのは、「授受」の“来”を経由したという可能性である。(31)のような「非授受」の“来”と(32)(33)のような「授受」の“来”の違いは、後ろの受動者名詞句(目的語)が指し示す物の移動が有るかどうかという点のみである。このような類似性

だけに注目すると、「授受」の“来”から「非授受」の“来”への変化だけでなく、「非授受」の“来”から「授受」への“来”への変化もあり得るように見えるが、「授受」の“来”が「寄越す」の“来”から生まれた可能性が高いことを考慮に入れると、後者の変化は考えにくい。なぜなら「寄越す」の“来”は「移動義」及び「話し手方向」という意味特徴を持ち、「授受」の“来”は「話し手方向」という意味特徴は失っているものの「移動義」は完全には消失していないため、もし【「寄越す」の“来”→「非授受」の“来”→「授受」の“来”】という変化があったのであれば、変化の過程で一旦消えた移動義が復活したことになる。このような変化が絶対に無いとは言い切れないが、【「寄越す」の“来”（移動義あり、移動方向が話し手方向に限られる）→「授受」の“来”（移動義あり、移動方向に制限なし）→「非授受」の“来”（移動義無し）】という変化のほうが一般的な文法化に見られる単方向性（unidirectionality）に合致しており、可能性が高いと考えられる。

2.4 本章のまとめ

2.1 では“来 f1”の意味と統語的特徴を確認し、2.2、2.3 では代動詞的用法の“来”が辿ってきた文法化の道筋を推定したが、まとめると図1ようになる。図中の「代動詞 1」は(9) (10b)のような“来”、「代動詞 2」は「授受」の“来”、「代動詞 3」は「果断」の“来”、「代動詞 4」は「非授受」の“来”を指す。

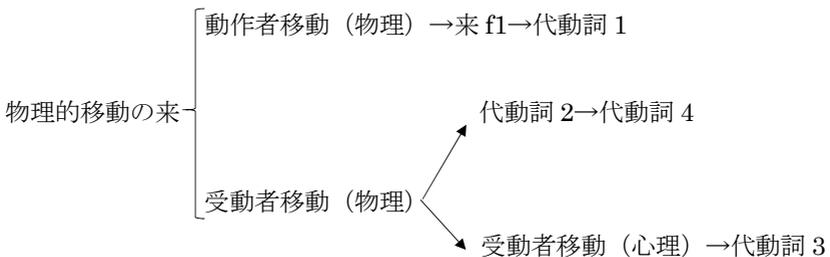


図1 代動詞的用法の“来”が辿ってきた文文化経路

本論文の仮説が正しければ、先行研究において代動詞的用法に分類された“来”には、動作者名詞句(主語)の指示対象の物理的移動を表す“来”由来のもの、受動者名詞句(目的語)の指示対象の物理的移動を表す“来”由来のものがあるということになる。

3 結語

本稿では、先行研究で代動詞的用法に分類されている“来”の意味及び統語的特徴を分析し、代動詞的用法と呼ばれるものには複数のタイプが混在していること、一部の代動詞的用法は“来 f1”との直接的な繋がりが認められるが、別の経路を辿ってきたと考えられるものがあることを指摘した。さらに、物理的移動を表す“来”から代動詞的用法への文法化経路を推定した。今後の課題としては、“来”の変化経路についての本稿の仮説を通時的な調査によって検証することが残されている。

【付記】 本論文は、筆者の博士論文第2章2.4.5節の論考の一部を発展させたものである。なお、同博士論文は2020年11月現在、未出版である。

参考文献

- 相原まり子(2005)「中国語のフォーカス標示手段—“来”を中心に」『中国語学』252, 111-126
- 相原真莉子 [相原まり子] (2010)「失去位移义“来”的核心功能」『世界汉语教学』第1期, 37-45
- 相原まり子(2016)「中国語の直示移動動詞の研究—文法化した“来”“去”の意味と統語的特徴—」博士論文, 東京大学
- 相原まり子(2019)「中国語における直示移動動詞の文法化—[動作者名詞句+来+動詞句]の“来”の意味と文法化の道筋—」『認知言語学を拓く』117-141, くろしお出版
- 池田晋(2005)「“来”の代動詞的用法とダイクシス」『中国語学』252, 144-163
- 郭維茹(2005)『指示趨向詞“来”, “去”之句法功能及歷時演變』國立台灣大學中國文學研究所博士論文

柯理思 [Christine Lamarre] (2007) 「汉语里标注惯常动作的形式」『日本现代汉语语法研究论文选』(张黎、古川裕、任鹰、下地早智子主编) 101-124, 北京: 北京語言大学出版社

辛承姬(1998)「连动结构中的“来”」『语言研究』第2期, 53-58.

鲁晓琨(2006)「焦点标记“来”」『世界汉语教学』第2期, 20-30.

Shen, Ya-Ming (1996) The semantics of the Chinese verb “come”. In Eugene H. Casad (ed.), *Cognitive linguistics in the redwoods: the expansion of a new paradigm in linguistics*, 507-540. Berlin: Mouton de Gruyter.

Sweetser, E. (1990) *From etymology to pragmatics*. New York: Cambridge University Press.